

(提案5)

※参考資料

回答書

先日は、地域研究委員会・地域研究基盤整備分科会から提出しました提言（案）「最近の対外的緊張関係の解消と日本における多文化共生の確立に向けて」について御審議いただき、ありがとうございました。その際のご指摘をふまえて修正案を作成しましたので、あらためて提出いたします。また、ご指摘いただいた点につき、下記の通り回答申し上げます。ご検討のほど、どうかよろしくお願い申し上げます。

地域研究基盤整備分科会委員長
小松久男

1. 「提言」とすると、どこに対して、何をどうしてほしいかの意見が弱いので、「報告」でもよいのではないかと。
→ ご指摘に従い、報告として発出することにします。これに合わせて必要な修正を加えました。
2. 全体としては、相手を認めて共生を目指すという論調であるのに、特定の政治家等を名指しで批判しているような誤解をまねかないために、記述には配慮が必要ではないかと。語尾がきついトーンも見られるので、もう少し穏やかな表現を工夫していただきたい。
→ ご指摘に従い、特定の政治家の名前はすべて削除するとともに、穏当かつ客観的な表現となるように改めました。
3. 政治的緊張の高まりなど、ネガティブな記載が目立つが、もっとポジティブな面を取り上げて、共生の好例を示すことも効果的ではないかと。
→ 今回の報告は基本的に問題提起ですので、憂慮される点を中心に書いております。その上で、ご指摘に従い、緊張緩和や共生に有効な、肯定的な面についても書き加えました。
4. 本文1ページの冒頭の段落で提言という言葉が用いられると紛らわしいのではないかと。
→ 指摘に基づき修正を加えました。
また、4章のタイトルも提言を用いない方がよいのではないかと。
→ ご指摘の趣旨を踏まえて修正を加えました。

以上の訂正箇所について、主要な訂正点は下記表に記した通り。

訂正前	訂正後
1. 「提言」とすると、どこに対して、何をどうしてほしいかの意見が弱いので、「報告」でもよいのではないか。	
提言(表紙、要旨 iii.1. など、本文中の関連表現すべて)	「報告」に変更
要旨 3 提言などの内容(要旨 iii-iv および本文 5(p. 12-13))	要旨 3. の題を「推奨される方針および課題」と、本文 5 の題を「推奨される方針」と変更
この提言は、…努力を <u>求める</u> 。それとともに、…官民学の関係諸機関に <u>求めるものである</u> 。(「1 はじめに」 p. 1)	この報告は、…努力を <u>求めるという観点からまとめたものである</u> 。…官民学の関係諸機関に <u>求めるものである</u> 。
本提言は、…日本として <u>なにをなすべきか</u> という立場に立っている。(3) 国際社会からの東アジア情勢に対する懸念 p. 3)	本報告は、…日本として <u>いかなる心構えをもってこの危機に対処すべきか</u> という立場に立っている。
3 <u>日本が抱える問題点</u> (p. 4)	本文 3 の題を「 <u>日本が有する問題点と条件</u> 」に変更
4 地域研究者の立場から <u>提言する意義</u> (p. 10)	4 地域研究者の立場から <u>提示する意義</u>
5 <u>提言の内容</u> 以上のような…メディアに <u>求める</u> 。(p. 12)	5 <u>推奨される方針</u> 以上のような…メディアに <u>推奨する</u> 。
特定の政治家等を名指して批判しているような誤解をまねかないために、記述には配慮が必要／語尾がきついトーンも見られるので、もう少し穏やかな表現を	
さらに <u>安倍首相が就任から 1 年を経た…浴びたが、ニューヨークタイムズ…の間でもこうした動きを警戒する反応がみられた</u> 。とりわけ米政府も、ケネディ駐日米大使が「米国は…首相の決断に失望した」と述べるに至った。2013 年 7 月に米務省東アジア・太平洋担当国務次官補…強く推奨する」と発言したように、米政府は、尖閣を巡る対立が発生して以来、東アジアでの緊張の高まりを警戒している。 <u>しかし、それに逆行するような日本政府要人の言動を巡り、日米間の関係にも不協和音が漂っている</u> 。	さらに就任から 1 年を経た…浴びたが、そのことによりニューヨークタイムズ…の間でも、 <u>日中韓間の緊張関係を懸念する報道がみられた</u> 。米政府も、2013 年 7 月に米務省東アジア・太平洋担当国務次官補…強く推奨する」と発言したほか、ケネディ駐日米大使が総理の靖国参拝を巡り「米国は…総理の決断に失望した」と述べたように、尖閣を巡る対立が発生して以来、東アジアでの緊張の高まりを警戒している。

<p>(「2 日本を取り巻く東アジア情勢の現状(1) 日本を取り巻く昨今の緊張関係の概観」、p. 2)</p>	
<p>日本の政治、・・・海外の主要メディア(附録1参照)から<u>厳しい論調が向けられている</u>。・・・説明した。この発言が、経済相互関係の存在にも関わらず戦争を行う意志があるように<u>世界的に報じられ、両国間開戦の危機が広く国際社会を懸念させている</u>。・・・「タイムズ」紙が、<u>ダボス会議での安倍総理発言を巡って、第三次世界大戦の勃発を予測する論説を掲載したほどに、・・・警戒感にあふれている</u>といわざるをえない。 (3) 国際社会からの東アジア情勢に対する懸念, p. 2-3)</p>	<p>日本の政治、・・・海外の主要メディア(附録1参照)から<u>強い危惧が示されている</u>。・・・説明した。<u>海外の主要メディアはこの発言を、経済相互関係の存在にも関わらず戦争を行う意志があるように報じ、両国間開戦の危機を広く意識させた</u>。・・・「タイムズ」紙が、<u>第三次世界大戦の勃発を予測する論説を掲載したほどに、・・・警戒感に満ちている</u>といわざるをえない。</p>
<p>そうしたなかで、<u>河野談話、村山談話の見直し論が浮上したことで、日本社会の人権認識に対する国際的な疑義を招く危険性がある</u>。基本的人権の尊重や、民族、信条によらぬ万人の平等という普遍的価値観において、日本の認識が<u>国際標準から逸脱している、ととらえられるような事象が起きることは、日本の国際社会からの孤立を招きかねない</u>。日本が、・・・受けることは、避けるべきである。(4) 排外的ナショナリズムの台頭と人権の尊重への障害 p. 9)</p>	<p>このような昨今の日本社会における一部の風潮が、基本的人権の尊重や、民族、信条によらぬ万人の平等という普遍的価値観に対して、<u>配慮を欠くのではないかとの誤解を国際社会に与えかねないことは、危惧すべきことである</u>。日本が、・・・受ける<u>ような事態は、避けるべきである</u>。</p>
<p>その意味で、<u>河野談話や村山談話などの過去の方針の見直し論が浮上したり、総理が靖国に参拝するなど、日本が中国、韓国を刺激するような言動は避けるべきだとの意見が多い</u>。さらには、Foreign Affairs 誌・・・研究員など、知日家の間での議論にみられるように、<u>日本が大規模に再軍備するならば、アジア各国での軍備拡張競争が誘発され、地域関係を一層悪化させるといった懸念も示されている</u>。 しかしながら、<u>政府要人の中にむしろ対立を煽るように受け止められる言動がみられ、国際社会に対して日本が対立回避へと真摯な努力を払っていると納得させることは困難である</u>。安倍</p>	<p>Foreign Affairs 誌・・・研究員など、知日家の間ですら、<u>日本が中国、韓国を刺激し、軍備拡張競争を誘発することで地域関係を一層悪化させるような言動は、避けるべきだとの意見がみられる</u>。 しかしながら、<u>そうした国際社会からの危惧に対して、政府がこれに配慮し慎重な対応を示していると評価されているかどうかには、疑問がある</u>。たとえば、<u>総理が今年3月に河野談話・・・その直後に他の政治家から総理の見解とは異なる発言がおこなわれたことで、韓国側の対日批判を再燃させ、関係修復努力に水をさす結果となった</u>。こうした状況では、<u>国際社会に対して</u></p>

<p><u>総理が今年3月に河野談話・・・その直後に自民党の萩生田光一総裁特別補佐が新たな談話の必要性を指摘したり、下村博文・文部科学相が、河野談話と村山談話は教科書検定基準となる「政府の統一の見解」には当たらない、と述べたことで、韓国側の対日批判を再燃させ、関係修復努力に水をさす結果となっている。</u></p> <p>(5) 国際社会の日本の政策変化に対する懸念, p.9)</p>	<p><u>日本が対立と緊張の回避へと真摯な努力を払っていると納得させることに、障害が生じるだろう。</u></p>
<p>政治的緊張の高まりなど、ネガティブな記載が目立つが、もっとポジティブな面を取り上げて、共生の好例を示すことも効果的では</p>	
	<p>p.5 最後、図2の前に、以下の文を追加。「さらに、<u>学術分野での交流も、過去10年間活発に推進されてきた。2005年の日中外相会議で提案された日中歴史共同研究は、それぞれ10名の有識者によって四年間続き、2010年には日中英3カ国で報告書が発表された。また韓国との間では2002年に日韓歴史共同委員会が発足し、それぞれ11～16名の有識者が共同研究を行い、2010年まで二期にわたって続けられた。</u>」</p>
<p><u>歴史認識・・・、国際社会に発する危険性が高い。それは、世界の平和と協調を・・・失うことにもつながりかねない。</u>(5) 国際社会の日本の政策変化に対する懸念, p.9)</p>	<p><u>戦後日本の平和政策と国際貢献は、これまで国際社会で高く評価されてきた。だが、歴史認識、・・・国際社会に発する危険性がある。それによって、世界の平和と協調を・・・失うこととなれば、極めて憂慮すべき事態である。</u></p>

5. タイトルが適切か、再考していただきたい。

→ 再考しましたが、本報告で扱っている問題は必ずしも東アジアに限定されるものではありませんので、元の形をいかしたいと思います。

以上